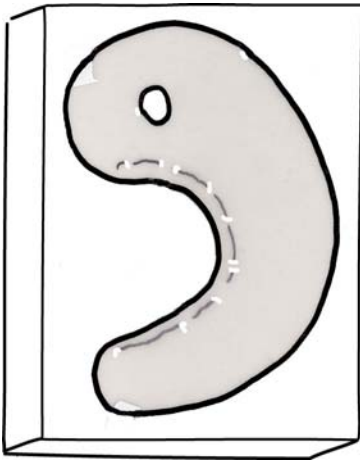
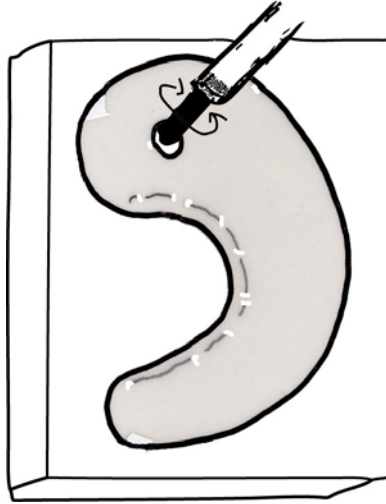


まがたま 勾玉のつくりかた

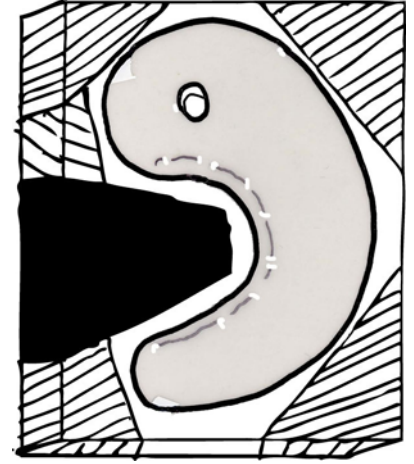
熊谷市立江南文化財センター



① 石の表面に勾玉の絵を描く。できあがりは、やや小さくなるので、石全体を大きめに描く。穴の位置も決めておく。



② ドリルで穴を開ける。隅に穴をあけると、石が割れることがあるので、できるだけ中央にあける。



③ まわりの斜線部分を目の粗い紙ヤスリで削る。黒い部分は、棒ヤスリか鉛筆・割りばしに紙ヤスリを巻きつけて削る。



④ 角を削り落として、全体に丸みをつけていく。石を手に持って削る場所を少しずつ変えて削っていくとよい。



⑤ 全体の形が「まるく」整ったら、目の細かい紙ヤスリで勾玉の表面に残っているキズを消すようにみがいていく。



⑥ 仕上げは、細粒の紙ヤスリでみがく。キズが残っていたら⑤に戻る。最後に布や革で磨くとツヤがでる。ひもを通して完成。

作業中に勾玉を床に落とさない

ように注意しましょう。割れたり欠けたりします。

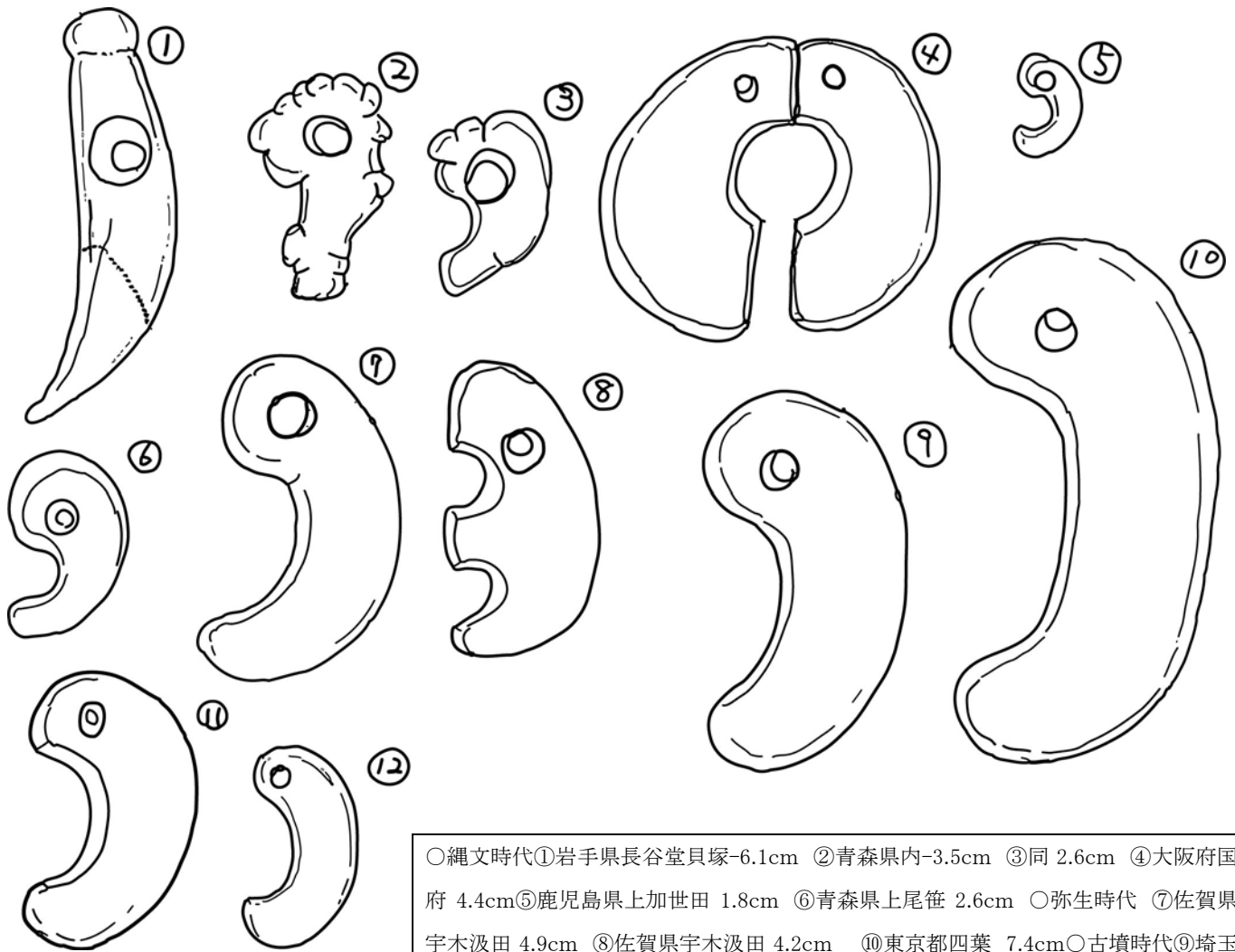
削った粉を吸い込まないように注意しましょう。

粉のついた手を「パン！パン！」とたたくと、周りの人に迷惑なので、やめましょう。



勾玉の装着例 弥生時代
京都 今井赤坂墳丘墓

いろいろなまが玉



○縄文時代①岩手県長谷堂貝塚-6.1cm ②青森県内-3.5cm ③同 2.6cm ④大阪府国府 4.4cm⑤鹿児島県上加世田 1.8cm ⑥青森県上尾笹 2.6cm ○弥生時代 ⑦佐賀県宇木汲田 4.9cm ⑧佐賀県宇木汲田 4.2cm ⑩東京都四葉 7.4cm○古墳時代⑨埼玉一本木前 4.3cm ⑪埼玉県稲荷山古墳 4.1cm ⑫三重県石山古墳 2.8cm

まが玉 まめ知識

1.まが玉のかたちはどうして？

縄文時代には、動物のキバに穴を開けてつくったきば玉のかたちをもとに、形が整えられてまが玉になったと考えられています。

2.まが玉は何に使われたのか？

冠飾りや首飾りなどに使われたことが多いようです。単なる飾りだけでなく「お守り」としての役割が強かったようです。

3.まが玉は何でできているのか？

ヒスイ、水晶、碧玉、メノウ、ガラスなどで作られたものは地位の高い人が使ったようです。やや加工が容易な滑石製や土製のまが玉も多数あります。

4.穴はどうやってあけたのか？

古墳時代前半までは竹製のきりに研磨剤を混ぜてその摩擦によっていました。古墳時代後半からは鉄製のきりであけていたようです。

5.埼玉県の「県章」の由来は？

埼玉県では、さきたま古墳群をはじめ多くの古墳からまが玉が出土していました。また、県名の「埼玉」は「さきみたま（幸魂）＝幸玉」の意味があり、まが玉がその象徴です。県章のデザインはまが玉16個を円形に配置したもので、「太陽・発展・情熱・力強さ」を表わし、東京オリンピックの開催を期に昭和31年9月1日に制定されました。